

令和八年四月吉日初版作成

統一の意義と実践上の留意点

高嶋善三郎

目次

- 統一の意義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- ヨガと統一の違い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 統一するとなる状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 統一するうえでの留意点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 雑念が出て来た時の処理の仕方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウエブ
サイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。
よりの分かります。そのため、ご感想があれば、
お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせください。

（スマホ）090-3346-0019

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

統一の意義

統一について五井先生のお言葉を整理すると、端的に言えば、私たち人間は、宇宙神の分身として、この未開の肉体界に愛と調和の世界を創造するため、派遣されてきている存在なのです。ただこの地上界に降りてくるときに、過去の神界、霊界での記憶をすべて失い、この波動の低い地上界での体験をし、そのうえでその天命を果たすことを運命づけられているのです。

私たちが 天命を完うしていくためには、この地上界での体験を生かしながら、宇宙神の分身たる光の存在であることの記憶をよみがえさせ、この地上界を愛と調和にしていくための智慧と能力をとりもどすことがまず大切な課題なのです。

そのためには、自分たちの存在の真理を理解し、今の意識を宇宙神の愛の波動に意識的に合わせ、自らの波動を高めることが欠かせないのです。それを五井先生は統一といわれているのです。

宇宙神の高い波動に同調する前に、まずやるべきことは、自分の心の中の様々な想いを調和させ一つにすることが必要です。

即ち私たちの想念は、客観的に見たとき、悲しみや怒りや嫉妬など

の感情によって揺れ動いたり、心の中でいろいろな考え方がぶつかり合ったりしています。これを調和させていくことが不可欠だといわれているのです。

その解決方法として、あげられているのが、守護の神霊の力をお借りして、内なる神の存在である本心（神聖）の中に、感情想念や様々な考え方を投げ入れ、光に還元することだと言われているのです。

統一に関する五井先生のお言葉は、『白光誌から 1955年1月号から1980年9月号まで』（編集者不詳）に整理されています。それにもとづいて整理します。

まず統一の意義について、見てみましょう。

「私の言っている人間というのは、肉体としての人間ではなく、真実の人間、つまり神の子としての人間、生命そのものを言っているのである。私たちに働いている生命、そしてその働きとしての心は、大生命、宇宙神（心）の一筋一筋の働きとして、この地球界に働いているのである。その働きはそのまま直霊として宇宙神に統一して、その統一の中から働いているのである。」

そうした一筋一筋の生命体を真実の人間というのであり、神の子人間

ついでである。だから眞の人間は、統一するもしないもない、そのまま統一してゐるのだ。統一するといふことは、業想念に把われさえしなければ、自ずと統一してゐる眞の人間といふものが、現われてくるのだといふとき、私は世界平和の祈りとともに教えてゐるのである。

そこで統一会では、私に働いておられる神々の大光明が、皆さんの業想念を消し去つて、やすやすと統一の状態を皆さんに体得させてゐるのである。』（『白光誌』一九〇〇年の用語スペース）

「統一といふのは、人間の業想念、おまの想いを一つに統一（す）べるといふことである。一つといふのは一つの心、本心である。

本心といふのが神のみ心であるので、素直に神を信じ、神の愛を信するといふ、本心に統一し、神に統一するようになるのである。』（『白光誌』一九〇〇年—一九〇一年のスペース）

「何か特別の行法による統一などよりは、日常茶飯事、生活の一切を世界平和の祈りを根底にして、やつてゆへにうな生き方の方が、雑念の起らぬ、起つてもすぐ消えてしまふ、統一と等しい状態になりやすい。

改めて言えば、統一といふものは、統一行として座つてゐる時だけのものではなから、日常茶飯事の中でも、統一と等しい心の状態になることが出来るのでそのためにも世界平和の祈りを根底にした、生活をして下

るべきことだ。』（『白光誌』一九〇〇年の用語スペース）

「世界平和の祈りが心の中にありさえすれば、それはもう統一してゐるのである。世界・・・を忘れてゐる時は統一してゐないのか、といふことではない。その時は守護霊守護神がちゃんと祈つてゐるのである。

それで一度世界平和の祈りを教わつて、皆さん方のようになつたら、いれといふ時には、必ず思い出すに決まつてゐる。世界平和を思い出さなければ、五井先生を思い出す。どちらかを思い出す。

思い出した時には、守護霊守護神とパツとつながつた時で、統一してやつてゐるわけなのであるから、統一してゐない時は本当はない。統一してないと思ふ思いがあるだけで、その思いは、思い出せばなくなる。

そういうものなのである。』（『白光誌』一九〇一年の用語スペース）
「人間は、本当は調和体であるべきものが調和しないで、自分の心の中でいろいろな想いが、戦いあつて争つてゐるといふのがあるだろう。みんな誰にもね。それはやっぱり、霊魂が合わなかつて生れなれてきてゐるのである。

人間といふものは宇宙神において、直霊においては一つなのだ。完全に一つの生命なのである。体がこつ分かれすべてが分かれても、一つな

のである。

この働きの場合には一つの人間でありながら、二つも三つもの者が貼って働いているわけなのである。そこで一番大事なことは何かということ、自分の心を調和させる、自分の心を統一させること。

過去においていろいろな想いをして、いろいろなことをした霊魂たちが集まって一つになっているから、みんな必ず混合霊になったり分裂霊になったり、いろいろな転生してきているわけである。

では混合霊がどうしたら調和するかということ、一なる神さまの中に自分の想いを全部入れてしまえば、いいのである。そうすれば神さまの方で自然に調和させてくれるのである。それが守護神への感謝なのである。すべて守護神の統率のもとにあるわけであるからどんなに分霊が入ってきて混ざっても、三十、五十混ざっても守護神がちゃんとみているのである。責任は守護神の方にあるわけである。自分の調和を築き上げる、自分が統一体になって、すべてのものが統一であるのである。』(『白光』誌『1991年7月号』9ページ)

ヨガと統一の境

五井先生の説かれる「統一」は、過去人類史上多くの聖者、賢者によ

って開発・改善されてきたものを私たちが容易く実践できるように整理されたものであることに気がきます。

「ヨガ」というのはどういふことかという質問があるが、統一ということなのである。テレビなどで紹介されているのは健康法のヨガなのである。それは枝葉のことであり、根本は統一することがヨガなのである。精神統一である。

インドから伝わってヨガというのでなくても、真言宗でもヨガをやっているのだし、仏教でもさまはヨガ、いわゆるヨガのやり方と同じである。お釈迦さまがヨガ、統一ということを教えたわけである。うちのは易行ヨガというのである。

呼吸法というのがたくさんある。それを行するわけであるが、一人一人呼吸法は違つのである。呼吸の仕方が違つのである。だからある人には合わない。合わない呼吸法をやっていると、その人は病気になるりする。』(『白光』誌『1993年2月号』4ページ)

「祈りの深いものが統一である。祈りが深くなって、祈っている自分自身、流れてくる光も、ひとつになつてしまった時が、一番深い統一なのである。』(『白光』誌『1999年10月号』5ページ)

「生命が生き生きするとは、何も体を動かすことだけでなく、平凡そ

うに見える静かな中でも、生き生きしている感じがあるわけである。そうなるために、祈り言を心の中で唱えながら、そういう状態になるわけである。それでその状態になりきるよ、それは統一なのである。』(『白光誌』1969年10月号25ページ)

「本当の統一というのは、心も体もゆったりとするよ、神さまに任せきった形になる。ゆったりと余裕のある態度なのである。緊張で肩を怒らせたりのいうものではないのである。それは我である。

であるからお裁縫しながらでも、漬物をきのみながらでも、それが楽しく明るく気持ちよくなって、しかも心の中でも平和の祈りをしていけば、それはもう完全な統一である。』(『白光誌』1969年10月号25ページ)

「チャクラを開く意義とそれを進化させる呼吸法」のいうなれば自分の本心に、肉体の想いが合体することが統一なのである。』(『白光誌』99年10月号26ページ)

「世界平和の祈りを一生懸命している時は、統一なのである。』(『白光誌』1969年10月号26ページ)

「祈り言葉にゆって、統一状態にすすんでゆ。だから祈り即統一でもめめわははめめわ(『白光誌』1969年10月号26ページ)

「統一ということとは、常に神様の中に入っていることである。み心の中に入っていることとは、具体的にどういふことかというよ、お味噌汁を作るのでもありがたしいございます。何か品物を買うのでもありがたしいございます。お掃除をしながらありがたしいございますと言つ時、神さまと一つになるのである。

けとばなれても、なにながあつても、ありがたしいございます、といえるようになったら達人である。』(『白光誌』1974年12月号18ページ)

統一状態に起る現象

私たちが統一状態になったとき、どのような心境になれるのかについて、説明されています。私たちにゆって、きわめて興味深いものです。

五井先生は、「心というのは肉体にもあるが、それは想いとしてあ。しかし肉体を支える力として、肉体をここに派遣している力として大きく存在しているよとがわかってゆ」といわけです。

「統一をしている時は肉体にいないのである。幽体にいる人もあわは、霊体にいる人も神体にいる人もめめわ(『白光誌』1975年8月号19ページ)

「統一してズーツと静かになゆ、肉体があるかないかになゆ。そして

統一の祈りの意識

思いは澄み切ってゆく。そういう状態になる。そういうなくとも、肉体

と心というのが別のものであることがよくわかってゆく。

心というのは肉体にもあるが、それは想いとしてある。しかし肉体を支える力として、肉体をここに派遣している力として大きく存在している

ことが、統一しているのだんだんわかってくるのである。」「(『白光誌』

1977年5月号16ページ)

「私は想念停止の修行をして、何にも思わずに歩くのである。何にも思わないで話をし、仕事をする人。これはなかなか出来ない。

ところが武道武術などになれば出来る。いざ試合の時、胸を打つとか小手を打つとか思わないのである。

ところが自然に体が動いて、面なり小手なり打つわけである。武道なごころはよくわかるのである。

宗教の場合も全く同じなのだけれども、みんなわからない。頭で考えたら物をしてやろうとする。

ところが言葉は、頭で考えない人は神さまの方でちゃんとやってるのだから

である。」「(『白光誌』1978年12月号16ページ)

統一するうえで、大切なことは、「のんびりと意気はらず、世界平和

の祈り言の中に、一切の想念を投げ入れてしまえばよい」と言われている。

「世界平和の祈りは、のんびりと意気はらず、世界平和の祈り言の中に、一切の想念を投げ入れてしまえばよいのである。ただ私の柏手のひびき

の中に、任せてしまえばよいのである。

その時大事なことは、雑念が起ってきたら、その雑念を自己の想いで消そうと思わないことである。消そうと力まないことがよいのである。

どんな雑念も放っておけば、必ず消え去ってゆくのである。

力まないということは、統一にとって最も必要な心構えなのである。」「(『白光誌』1980年12月号16ページ)

「統一の仕方にもいろいろあって、私はくわしく説かないけれども種類ある。

しかし私はあまり教えないで、かたんに世界平和の祈りの中で統一

をさせてしまっただけである。」「(『白光誌』1979年12月号16ページ)

「統一をしていく時、雑念に流されてしまうようになったら、ひびきと統一

……と世界平和の祈りを順序立てて祈りなれ。」「(『白光誌』

1969年12月号11ページ)

「現在までの統一修行というのは、自力的であった。しかし私のやっている統一会というものは、統一修行をしようと思う自意識を起し、会場まで足を運んでくる労を取れば、後はこちらに全てをお任せになればよいようになっている統一修行なのである。

自己の雑念で統一を妨げてはいけないので、雑念はすべて消えてゆく姿として観する、練習が必要なのであるが、私のところに来ておられる方は、この練習さえも、自意識でやる必要はないので、ただ統一会に数多く出席していれば、自然と深い統一状態を体験するようになるのである。』(『白光誌』1970年7月号20ページ)

雑念が出て来た時の処理の仕方

雑念が出て来た時、どう処理をするべきか、きわめて大切な事項です。五井先生は「統一が深くなった時に雑念が多く出る場合もある。雑念が出た瞬間という理想が出た瞬間、神様と思っている時は統一している時だ」と神さまの方に自分の意識をむけることが大切であると言われているのだ。

「統一がうまくいった、まずかったという事が、皆さん個人にわからない

時があるね。自分では雑念が出て、少しも今日の統一はよくなかったと思う場合でも、我々から見ると、とても良かったという事がある。』(『白光誌』1973年5月号18ページ)

「統一しなければならぬ。無我にならなければ。雑念を払ってウーンと気張る。それでは統一など出来はしない。

そもそも気張ることが我(が)なのだから、それよりもふわわりと居眠りするつもりで、ああいいお日和で、いい気持ちでしゃべっていいね、知らない間に光が入って統一してしまっているのである。

だから気張ることはないというのが、私の教えなのである。』(『白光誌』1963年2月号19ページ)

「祈りをしている時起こる雑念は、すべて消えてゆく姿としなければならぬ。

祈り言葉を何度びとなく唱えて、想いが本心に統一してゆこうとしている時、しきりに雑念が湧き起こってくることもある。

そうした時はその雑念を消えてゆく姿なのだと思いかえして、雑念が出るがままに祈りつづけるとよいのである。

いかなる雑念も相手にさねなければやがて消えてしまっているので、出てくる雑念をあたかも実在するもののように思って、相手にする必要はない

のぶあつ。』（『田光誌』1972年の田光テープブック）

「雑念というものと統一とは別なのである。

雑念は消えてゆく姿として幽体から出られているわけである。だから統一が深くなった時に雑念が多く出る場合もあるわけである。雑念が出たという思いが出たという時、神様と思っている時は統一している時なのである。雑念が出ていても統一している。それがわかると一人前な人である。そこから雑念が起っても雑念は雑念、統一している自分は統一している自分、それをはっきり区別するいう。

雑念というのは過去にやったことが現われて消えてゆくのである。それはそれでいいのである。雑念が出ながら神様ありがとうございますといわれています。と想えていければそれは統一している。

それがわかかっていくと、口で祈り言葉を言はなくなると、その世界平和の祈りをしている状態になるのである。』（『田光誌』1973年の田光テープブック）

「静かにしていなければ統一が出来ないなどというものはダメである。

大体この世界はいろいろな世界である。業の世界、汚れた世界にあって、浄らかに生きなければならぬというわけである。中、中、中、汚れた中にいても心を乱すことがないというようになる心の訓練、統一が出来なければ

何にもならない。

だから雑念が起ってきた、統一が出来ないというのは本物ではない。雑念が出ながら神様ありがとうございますといわれていますと想えていければ、それは統一している。』（『田光誌』1973年の田光テープブック）

「雑念は自分が起しているのではないのである。火を燃やせば、その煙が出るのと同じで、お祈りをするとき、業の煙が出てくるわけである。それは消える姿として、消えてゆくというように出てくるわけである。』（『田光誌』1974年の田光テープブック）

「そこから統一しても雑念はかり湧いてくるということもよくないという人もあるが、その場合はその人の幽体についている雑念が、統一による神霊の光明に照らして出されて、しきりに消えてゆく状態であって、その人その場における想念波動は神霊の中であって、その雑念とは関係ないのである。その真理を知る事が宗教的境地を急速に高める大きな要素となるのである。』（『田光誌』1976年4月テープブック）

「世界人類が平和でありますように」と言っていると救世の大光明がエッセイターになって神界に行くと、自分の本心の座に座してあげます。肉体にいらがら統一している時は本体の座に座してあげるのである。

雑念が起ってもいいのである。それは自分の本体とは関係ないのであ

る。消えてゆく姿なのである。守護神さまが中にある余分なものを消しているのである。頭でいちいち思わない。統一していれば自分の本体の中にいるのだな、五井先生と一緒にいるのだな、とそう思うのである。そう思っていて、どんどん消えてゆくと思う。

そうしていると雑念に扱われなくなってしまふ。カんで統一しなければ、何々しなければと思う時はため。スーッと神さまがやっていらっしゃるのだな、と思うと雑念は勝手に自分から離れてゆく。どんどん神さまの中へ入って、消えてゆくわけである。そして座っている自分は、神さまと一緒にいる。「白光誌』1978年12月号100ページ)

「統一会で雑念が出て、自分は統一できないと思っているけれど、年中統一会に来て統一しているという人は、実は統一している自分がわかっているのだな。

ただ、わからなそうとおもうけど、一杯あるのだな。これは前生の関係である。問題はその思おもうすの潜在意識も混ぜた理想が、無くなるまでなのだ。

まわりから、何んだ、そんなこと言っているけども、統一しているのはなにか、と聞いても、自分分はしていなそう思う時は、統一していな

である。ところが、していないという思いも、やがて消えてしまふ。知らないうちに、これでいいのだという感じが出てくるのである。『白光誌』1969年11月号31ページ)

以上、五井先生のご存命中の、統一に関するお言葉を列挙してきました。このお言葉から私たちがいかにゆったりとした気持ちで統一に取り組めるように、天と地をつないだご自分のお身体を通して、巨大なる光を降ろし、私たちの業想念を浄めてくださっていたことがわかります。

五井先生の御帰神後、昌美先生の御指導のもと、我即神也、人類即神也の印が降ろされ、宇宙の根源の一筋の光を降ろすご神事を2003年から2009年にかけて取り組み、神々の支援を得て、私たちのチャクラは開かれ、宇宙神の光を直に各神人が降ろすことができるようになりました。それに伴い神聖復活の印がおろされ、現在私たちは、日々この印を通して、宇宙神の光を降ろし、人類の業想念を浄めています。

そしてその中で、宇宙神と私たちの内なる神聖(本心)を同調させることがいかに大切なかを実感し、それはまた私たちの日々の習慣を新しい神聖復活の習慣に変えること、即ち私たちの日々の理想を本心としていすの重要性をあらためて思い知らされるのです。